

研究タイトル：

コミュニケーションにおける会話者意識に関する研究および実践研究

氏名： 金 桂英／キン ケイエイ

E-mail： kin@tokuyama.ac.jp

職名： 助教

学位： 修士（日本語教育）（早稲田大学）

所属学会・協会： 待遇コミュニケーション学会、言語文化教育研究学会 他

キーワード： 待遇コミュニケーション、語用論、実践研究

技術相談

提供可能技術：

「異文化理解講座」や「やさしい日本語講座」等、多文化共生に関する講座を担当できる。

・異文化理解講座

・やさしい日本語講座



研究内容：

1) コミュニケーションにおける会話者意識に関する研究

私の専門分野は「待遇コミュニケーション」である。「待遇コミュニケーション」とは、敬語、敬語表現、敬意表現、待遇表現、待遇行動、ポライトネス等々の概念を含み、さらに「待遇理解」という観点から「コミュニケーション」を包括的に捉えようとする研究分野である。今まで話し合いの会話資料を収集し、日本語母語話者同士、日本語学習者同士、日本語母語話者と日本語学習者のやりとりの特徴および「会話者意識」（話し手としてなぜそう表現したのかという根拠となる考え、および聞き手として理解する際の考え）を可視化する一連の研究を行ってきた。

今後は、今までの研究成果を生かし、会話者意識を取り入れた「会話コーパス」の作成を試みたい。これまでの会話コーパスは、談話資料のみになっており、実際に会話に参加している会話者の意識を一緒に記述していないのが現状である。そして、多くの会話分析に関する研究では、表現の奥に潜んでいる会話者の意識は研究主体の推測に任されている。しかし、話し合いでの意見の調整や配慮は、会話に参加した人の意識と大きく関わっており、それらを第三者が判断することは難しいと考えられる。近年、評価研究等において、会話者意識が重要視されているが、その成果は論文や報告書から公開される程度に留まっている。そこで、会話者意識を取り入れた「会話コーパス」を作成し、ウェブ上で公開することにより、自然言語研究、異文化理解に関する研究のための研究資料としても有効に活用されることが期待できる。

2) 担当科目の実践研究

担当科目の受講生の学びを分析・考察し、発信する研究活動を行っている。例えば、「日本文化交流」を履修している留学生と日本人学生のふりかえりシート等を分析し、「国際共修授業における受講生の学びに関する一考察」という題目で研究発表を行った。また、資料の分析や考察過程で得た気づきおよび研究発表で得たコメントを、日々の授業活動に生かすようにしている。

今後も担当科目の実践研究を継続し、より良い教育ができるように努力する所存である。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)